

## 4. 肉用牛繁殖農場における牛白血病清浄化への取り組み

珍珠家畜保健衛生所 1) 大分家畜保健衛生所

○中村繁正 久々宮仁三 廣瀬啓二 (病鑑)滝澤亮 病鑑 中出圭祐<sup>1)</sup>

【はじめに】地方病型牛白血病は、牛白血病ウイルス（以下BLV）に起因する致死性のリンパ肉腫で発症率は数%といわれる。近年、本県のみならず全国的に発生が増加しており、肉用牛繁殖農場にとってもその対策が急務となっている。今回、管内の肉用牛繁殖農場の2農場において、BLV清浄化への取り組みを始めており、現状における成果と課題について概要を報告する。

【対策農家】以下の2農場で取り組みを実施。

A農場：肉用牛繁殖、飼養規模（成牛49頭 育成牛6頭 子牛31頭）

施設（フリーストール式成牛舎1棟、子牛・分娩舎1棟）、管理者40歳代。

B農場：肉用牛繁殖、飼養規模（成牛37頭 育成牛4頭 子牛28頭）

施設（南牛舎（フリーストール式成牛舎1棟、分娩舎1棟、隔離舎1棟）、北牛舎（フリーストール式子牛・成牛舎1棟）、管理者50歳代。

【対策の概要】

(1) 浸潤調査：抗原・抗体検査（遺伝子検査（Nested PCR）とELISA）を全頭実施。

(2) 水平感染対策

ア 定期的な抗原・抗体検査（遺伝子検査（Nested PCR）とELISA）に基づく、BLV陽性牛と陰性牛の分離飼育及びBLV陽性牛の計画的な更新。

イ アブ・サシバエ対策（ペルタグ等）及び 観血的手技等人為的な感染の防止。

(3) 後継牛確保対策

ア 確実な陰性子牛を育成するため、出生後、人工哺乳による分離飼育を実施。B農場では、分娩監視システムを活用。

イ 出生後、速やかに遺伝子検査を行い、陰性と確認された子牛のみを引き続き分離飼育。その後、定期的な遺伝子検査を行い陰性を確認する。

【成果と課題】

A農場：（成果）育成牛・成牛の陽性率は、取組開始時71%から1年後（H29.9）49%へ減少。（課題）陰性牛の増加に伴う分離場所の不足。分娩房の不足による陽性牛と陰性牛の交差リスクあり。

B農場：（成果）育成牛・成牛の陽性率は、取組開始時81%から3ヶ月後（H29.9）85%へ上昇。分娩監視システムを活用することで、省力且つ確実な分娩立ち会いが可能となった。（課題）効率的な分離飼育できる牛舎配置の検討。

【まとめおよび考察】A農場において、同一牛舎内で3mの中央通路を挟んだ分離飼育が水平感染の防止に有効であることが確認できた。また、B農場において、秋から春にかけて分娩した子牛のBLV陽性率は28.6%であったことから、子宮内或いは経乳感染が疑われるので、人工哺乳による育成牛の確保が必要である。今後、当該2農場の取り組みを通じて、高いBLV陽性農場の清浄化モデルとして実証していきたい。